

製品名: NCAPH2 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe85825**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC,IP
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウム、0.05% 保護タンパク質、50% グリセロールを含む TBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IHC 1:50-1:100,ICC 1:50-1:200,IP 1:10-1:20
分子量	Calculated MW: 68 kDa; Observed MW: 68 kDa

抗原情報

遺伝子名	NCAPH2
別名	CAPH2
遺伝子 ID	29781.0
SwissProt ID	Q6IBW4
免疫原	ヒト NCAPH2 の合成ペプチド

背景

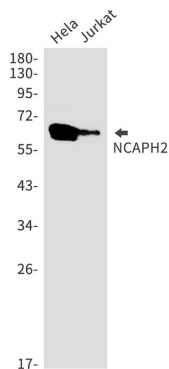
コンデンシン 2 複合体の調節サブユニット。この複合体は染色体に更なる組織化と剛性を与え、有糸分裂染色体構造の確立にも関与

していると考えられる (PubMed:14532007) 。姉妹染色分体間の二本鎖 DNA カテナン (絡み合い) の解消を促進する可能性がある。コンデンシンを介した凝縮は、カテナン化した姉妹染色分体の張力を高め、II型トポイソメラーゼを介した鎖交換を促し、染色分体脱カテナン化を促進すると考えられる。後期におけるクロマチンブリッジの脱カテナン化に必要である。神経発生初期には、ニューロン幹細胞における正確な有糸分裂染色体凝縮を確実に行う上で重要な役割を果たすと考えられ、最終的にはニューロンプールと皮質のサイズに影響を与える。T細胞発達において系統特異的な役割を果たすと考えられる (PubMed:14532007) 。

研究分野

-

画像データ



NCAPH2 抗体を使用した HeLa、Jurkat 溶解物中の NCAPH2 のウェスタン ブロット分析